

【配付資料一覧】

1. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 第6回会議次第
2. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 席次表
3. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 委員名簿
4. 議事関係
 - 資料1 『中里貝塚 保存活用計画書』の目次構成案と各回の委員会の主な検討箇所
 - 資料2 中里貝塚の構成要素の整理
 - 資料3 整備活用の検討
 - 資料4 国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会 かわら版 第2号
 - 資料5 国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会 かわら版 増刊号
 - 資料6 国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会 かわら版 増刊号

東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会
第6回会議次第

平成30年11月30日(金)
北区飛鳥山博物館 講堂

1. 開会

2. 教育委員会挨拶

3. 議題

(1) 計画書構成案について <資料1>

(2) 史跡の構成要素について <資料2>

(3) 整備活用に関する方向性について <資料3>

4. 報告

(1) 中里貝塚委員会だより(かわら版)の発行 <資料4>

(2) 地元勉強会等の報告 <資料5>

(3) ワークショップの予定(12/16) <資料6>

5. その他

○次回委員会 平成31年2月 北区飛鳥山博物館講堂

6. 閉会

委員会席次

【博物館講堂】

《委員会》

石川副委員長 阿部委員長

吉村委員			
山口委員(欠)			
〔オブザーバー〕			
野木文部科学技官			
伊藤管理課統括課長代理			

《区関係理事者》

松本委員代理 議波 様	筒井企画課長(欠)
山田委員	雲出広報課長(欠)
	馬場観光振興担当副参事(欠)
堀江委員	丸本都市計画課長
佐々木委員	岩本土木政策課長
	佐野道路公園課長

出入口

《事務局》

鈴木事業係長	中島	田草川教育振興部長(欠)	野尻飛鳥山博物館長
牛山	安武		

傍聴席

コンサルタント

壁

中里貝塚保存活用計画策定委員会 名簿

平成30年11月

(委員)

※敬称略

氏名	所属名等	
阿部 芳郎	明治大学教授(考古学)	
石川 日出志	明治大学教授(考古学)	
吉村 晶子	千葉工業大学教授(都市計画)	
議波 壽男	昭和町地区自治会連合会監事	松本会長代理
山田 和夫	上中里貝塚町会会長	
堀江 正郎	北区観光ボランティアガイド代表	
佐々木 富美子	公募(北区在住)	
山口 宗彦	区立滝野川第五小学校長	欠席

(オブザーバー)

野木 雄大	文化庁文化財第二課文部科学技官	
伊藤 敏行	都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理	

(区関係理事者)

筒井 久子	政策経営部企画課長	
雲出 直子	政策経営部広報課長	
馬場 秀和	地域振興部副参事(観光振興担当)	
丸本 秀昭	まちづくり部都市計画課長	
岩本 憲文	土木部土木政策課長	
佐野 正徳	土木部道路公園課長	

(教育委員会事務局)

田草川 昭夫	教育振興部長	
--------	--------	--

(事務局)

北区飛鳥山博物館

館長 野尻浩行 事業係長 鈴木直人

事業係(学芸員) 中島広顕、牛山英昭、安武由利子

事業係 谷 木綿子

TEL:03(3916)1133 FAX 03(3916)5900

Email: hakubutsukan@city.kita.lg.jp

『中里貝塚 保存活用計画書』の目次構成案と各回の委員会の主な検討箇所

第1章 中里貝塚の保存活用計画の概要

- (1) 計画策定の沿革
- (2) 計画策定の目的
- (3) 計画の対象範囲
- (4) 委員会の経緯
- (5) 他の計画との関係

第2章 史跡中里貝塚の概要

- (1) 史跡の位置・概要
- (2) 史跡指定に至る経緯
- (3) 史跡指定の状況
- (4) 史跡に関わる調査成果
 - 4-1. 自然的調査
 - 4-2. 歴史的調査
 - 4-3. 社会的調査
- (5) 指定地の状況
 - 5-1. 法規制・土地利用状況
 - 5-2. 公有化の経緯
 - 5-3. 史跡周辺の現況

← 第1回委員会(H30.1.19)

第3章 中里貝塚の本質的価値

- (1) 史跡の本質的価値
- (2) 本質的価値を構成する諸要素
- (3) その他の諸要素
- (4) 指定地の周辺地域を構成する諸要素

← 第4回委員会(H30.7.20)

第4章 現状と課題

- (1) 保存管理の現状・課題
- (2) 活用の現状・課題
- (3) 整備の現状・課題
- (4) 運営・体制の現状・課題

← 第2回委員会(H30.3.9)

← 第3回委員会(H30.5.11)

第5章 保存・活用に向けた基本方針（大綱）

- (1) 保存管理の方針
- (2) 活用の方針
- (3) 整備の方針
- (4) 運営・体制の方針

← 第5回委員会(H30.9.21)

第6章 保存管理計画

- (1) 保存管理の方向性
- (2) 保存管理の手法
- (3) 現状変更及び保存に影響を及ぼす行為の取扱基準
- (4) 指定地外の諸要素の保存管理の手法
- (5) 追加指定の考え方

第7章 活用計画

- (1) 活用の方向性
- (2) 学校教育における活用の手法
- (3) 生涯学習における活用の手法
- (4) 地域における活用の手法

第8章 整備計画

- (1) 整備の方向性
- (2) 保存のための整備の手法
- (3) 活用のための整備の手法
- (4) 整備事業のスケジュール

← 第6回委員会(H30.11.30)

第9章 運営・体制の整備

- (1) 運営・体制の方向性
- (2) 運営・体制の手法

第10章 施策の実施計画の策定・実施

第11章 経過観察

- (1) 経過観察の方向性
- (2) 経過観察の手法

中里貝塚の構成要素の整理

・基本的に「A. 史跡指定地内」および「B. 史跡指定地外」において、現地に実際に存在するものを中里貝塚の構成要素として分類する。

A. 史跡 指定 地 内	①本質的価値を構成する要素	最大厚 4.5m の貝層、木道、土坑、焚き火跡、貝層に打ち込まれた杭、作業空間としての砂堆(木枠付土坑を含む)、波食台地形、地下に埋蔵されているその他の遺構や遺物、飛鳥山博物館に展示されている貝層の剥ぎ取り標本や出土遺物
	②その他の諸要素	
	②-1. 本質的価値に密接に関わる要素	史跡の保護に有効な要素 史跡標柱、史跡の解説板、境界標
	②-2. それ以外の要素	史跡の保存活用に有効な要素 住宅密集地のオープンスペース、ベンチ、屋外卓、公園灯、金網柵、フェンス扉、分電盤、トイレ、水飲み台、植栽 史跡保護のために調整が必要な要素 公園の看板、町会の掲示板、防球ネット、時計、防災倉庫、防火水槽、資機材庫、ゴミ箱、ブロック敷、集水枡、側溝、植栽(地下遺構に影響を及ぼす恐れのある高木など)
B. 史跡 指定 地 外	①本質的価値を構成する要素	最大で長さ 700m、幅 100m に広がる貝層、作業空間としての砂堆、地下に埋蔵されているその他の遺構や遺物
	②本質的価値に準ずる要素	江戸前期～明治期の貝殻を材料とした産業(胡粉・焼石灰)、古代に遡るとみられる道路、中世板碑、古墳(人物埴輪・刀子・玉類)
	③その他の諸要素	
	③-1. 本質的価値に密接に関わる要素	中里貝塚の当時の姿を理解するうえで重要な要素 中里遺跡(丸木舟、集石遺構など)、高台の集落(七社神社裏貝塚、御殿前遺跡、西ヶ原貝塚、東谷戸遺跡など)、当時の活動の場を想起させる地形(田端微高地、飛鳥山微高地)
③-2. それ以外の要素	史跡保護のために調整が必要な要素 中里貝塚に広がる住宅街、道路、鉄道敷地など	

整備活用の検討

1. 保存・活用に向けた基本方針（大綱） **（再掲）**

中里貝塚の保存活用においては、上記の関連計画等との整合性を図りながら、中里貝塚の本質的価値を適正に保存・継承し、まちづくりの核としてその価値を顕在化することが必要である。よって、中里貝塚の保存活用の基本方針（大綱）を以下のように設定する。

史跡中里貝塚は、縄文時代中期から後期初頭の海浜部に形成された大型の貝塚であり、縄文時代の生産や流通から社会構造や地域的な分業体制などを考える上で不可欠な遺跡であるとして、平成 12 年 9 月 6 日に国史跡に指定された。最大で 4.5m の厚さの貝層は全国的に見ても希少で、貝層とともに検出された貝処理施設である木枠付土坑などの遺構は、当時の食文化等を知る重要な情報源となっている。

これらの貴重な歴史文化遺産・地域文化遺産は、現代に生きる人々のみならず、将来の人々にとっても大切な遺跡であるため、遺跡が持つ価値を地域の人々に広く周知し、ともに守り、継承していく必要がある。

そのために、第一には地域住民とともに、遺跡の価値を共有し、史跡に対する共通認識を持った上で、それらの情報を適切に発信することで、人々の積極的な保存・活用への参画を目指す。そして、中里貝塚を拠点として子どもから大人までが集い、学び、ふれあう場として活用を図り、地域の絆を深めるための 1 つの資源として捉えることも重要である。

史跡の効果的な活用にあたっては、その本質的価値を一般の人にも分かりやすいように示すための環境整備も欠かせないことから、現地で史跡について学んだり、情報を発信したりするための施設整備も検討する。

さらに、史跡の保存活用を円滑に推進していくために、ソフト面・ハード面の運営を支える“人づくり”を段階的に推し進め、持続的な体制構築を図ることとする。

（1）保存管理の方針

国内最大規模を誇る縄文貝塚を守り、伝える

◆史跡の本質的価値を適切に保存し、後世へ確実に継承する。

（2）活用の方針

貝塚を拠点とした縄文時代の社会構造をともに学び、活かす

◆地元住民や来訪者等の史跡に対する理解を深め、協働による史跡の保存活用を目指す。

（3）整備の方針

特徴的なハマ貝塚の価値を感じ、高める

◆史跡の本質的価値を顕在化し、現地で貝層を実感できるような環境整備を目指す。

（4）運営・体制の方針

地域に根ざした史跡と人々を繋ぎ、育てる

◆調査研究の推進や保存管理体制の充実、および関係諸機関との連携や地元参画など、幅広い人材の確保と育成に努め、持続可能な体制づくりを図る。

2. 史跡の活用計画

(1) 活用の方向性

中里貝塚の活用にあたっては、史跡の本質的価値を分かりやすく理解できるように顕在化し、都市部に残された地域の歴史的・文化的資源、観光資源およびまちづくりの核として積極的な活用を図ることとする。そのためには、地元住民や地元団体、近隣の学校や教育機関、区内の関係諸機関などとの協力・連携が欠かせないことから、史跡を核とした総合的な学習の場としての活用を目指す。

また、現在の史跡指定地は、住宅街の中のオープンスペースとしても認知されているため、区民の憩いの場・ふれあいの場および防災の視点からの活用も継続できるよう配慮する。

(2) 学校教育における活用の手法

中里貝塚を次世代へ継承していくためには、その担い手となる地域子ども達が、史跡を身近に感じられ、その価値を学ぶことのできる仕組みを整える必要がある。そのためには、ガイダンス施設等の「教育の場」の整備に加え、効果的な情報発信や何度も訪れたいくなるような体験学習プログラムも不可欠となる。また、整備後の活用だけではなく、整備の前段階から子ども達が参画することで、より中里貝塚に興味を持ち、史跡整備に対して主体的に取り組める環境づくりを検討する。

上記の内容検討をするために参考とした意見等

(これまでの委員会等で出された意見。網掛けはワーキンググループでの意見。)

- ・現状では、子供たちの中で中里貝塚を知っている割合は低いので、教育活動に絡めて史跡を学べるようにしていきたい。
- ・中里貝塚は北区を代表する史跡なので、今後の史跡の活用においては、区内の小中学生、高校生も含めて、「教育の場」として活用し、もっと周知できると良い。
- ・学校教育の中で、こういった日本一の貝塚があるのだということを説明できる場を作ってほしい。
- ・学校教育においては、整備の前段階から参加して、子ども達と一緒に史跡の案内板を作るなど、自分たちで情報発信の内容を考えることができるような関わりを持てると良いと思う。
- ・学校の子供も達が体験発掘に参加したり、過去の調査で発見された貝殻などの遺物を改めて分析するなど、体験学習プログラムもいくつかできると思う。
- ・中里貝塚周辺では、江戸時代にも貝殻を利用した胡粉などの産業が盛んだったので、そういった産業の変遷についても価値の中に追加して、地域の成り立ちなどを学ぶための1つの素材としてはどうか。
- ・A地点（児童遊園）では、貝捨て場と作業場（貝蒸し遺構）が確認されているので、当時の縄文人の活動を追体験できるような活用ができると良い。

◆事例紹介（校外学習・市民講座・子どもの利用）

- ・滋賀県大津市『国史跡：近江国府跡（国庁跡 惣山遺跡 青江遺跡 中路遺跡）』
- ・大津市歴史博物館の「れきはく講座」で現地見学会を定期的開催

第69回れきはく講座

【現地見学会】近江国府跡を歩く

福庭 万里子(本館学芸員)

平成27年11月28日(土) 午後半日徒歩コース

近江国府に関連する遺跡を中心に、瀬田近辺の史跡を歩いて巡ります。壬申の乱の舞台となった瀬田橋、史跡整備が進む近江国庁跡を始め、周辺の神社や史跡などを見学します。

ふるさと大津歴史教室

近江国府と瀬田唐橋

平成17年4月16日(土) 徒歩半日(午後)

近江国庁関連遺跡を中心に、瀬田近辺の史跡を探訪します。(定員50名)

【予定コース】 近江国庁跡-堂ノ上遺跡-瀬田廃寺跡-建部神社-瀬田唐橋-西方寺



(大津市歴史博物館ホームページより引用)

- ・地元の幼稚園児の遊び場や散歩コースとして活用



(3) 生涯学習における活用の手法

中里貝塚をひとつの核として地域の歴史を学ぶことで、郷土に対する誇りの醸成を図り、地域住民や来訪者等の間での交流を促し、地域活性化に繋げることを目指す。そのためには、史跡の日常管理を担う人員の確保や体験学習プログラム等のボランティアの育成など、計画段階からの地域住民の参画が欠かせない。また、近隣の博物館や資料館、尾久操作場等、周囲に点在する文化的資源と連携した各種イベントやシンポジウム等を定期的に開催することで、史跡への興味関心を継続させることも重要となる。

上記の内容検討をするために参考とした意見等

(これまでの委員会等で出された意見。網掛けはワーキンググループでの意見。)

- 今の史跡広場の場所を子ども達や地域住民に活用してもらい、そして活用の場を広げていくことが必要だと思う。
- 史跡の活用に向けて、貝塚を展示物として見た場合に、「ただ貝があるだけ」では、一般の人は興味を持たないように思う。貝塚を見て、そこから色々な方向に興味湧いてくるような展示にする必要があると思うので、いかに知的好奇心を抱かせるかという視点で活用を考えなければならないと思う。
- 中里貝塚は当時のウォーターフロントに位置し、台地のほうには現在、博物館などがあるので、そういった地形の特徴を感じられるような整備活用ができると思う。
- 弥生の大集落、古代の郡衙、幕府の鷹狩り、江戸の一里塚、古河庭園・・・など、歴史の重層性もこの地域の特色の1つ。

(4) 地域における活用の手法

中里貝塚は住宅密集地に位置しており、数少ない「みんなで使える空間」として地域住民に認識されていることから、人々が集い、ふれあう場としての活用を図る。また、地域の内外や来訪者に対して地域の魅力を発信するため、史跡散策コースを充実させるなど、観光面も意識した史跡整備を検討する。

上記の内容検討をするために参考とした意見等

(これまでの委員会等で出された意見。網掛けはワーキンググループでの意見。)

- 「誰が活用するのか」という点がある程度定めて、その対象者にとって「何が必要なのか」考えていくと良い。
- 飛鳥山博物館をスタートして、西ヶ原貝塚や一里塚、御殿前遺跡などを巡って、中里貝塚までの史跡散策コースができると思う。
- 飛鳥山博物館から西ヶ原、御殿前と歩いて行って、台地から崖下に下りて中里貝塚まで歩くコースは、まさに縄文時代の人々が貝を取りに行った道を歩くことになり、「今から縄文人になって浜辺に下りていきましょう」という散策ルートになると思う。
- 中里貝塚だけではなく、丸木舟が出土した中里遺跡の範囲も合わせて活用できると良い。
- 経済的な意味合いだけの観光ではなく、広い意味での“地域開発”の手段としての観光に、中里貝塚を活かせると思う。

◆事例紹介（地域活性化・地域振興）

- ・東京都府中市『国史跡：武蔵府中熊野神社古墳』

・10月の土曜・日曜日の2日間、「武蔵府中熊野神社 古墳まつり」を開催（今年で9回目）

当日のプログラム

第1日目

- 17時 古墳パレード出発
- 17時10分 開会式、会長あいさつ
- 17時40分 雅楽の調べ
- 18時 篠笛演奏
- 18時40分 和太鼓演奏
- 19時20分 ジャズ演奏
- 20時 終演

第2日目

- 10時30分 体験コーナー、出店などのオープン
- 12時30分 古墳パレード出発
- 12時40分 塗り絵コンクール表彰式
- 13時 雅楽の調べ
- 13時40分 洋舞連盟 舞踊
- 14時10分 あおい幼稚園、五小、本宿小演奏
- 15時10分 「ふるさと」全員合唱
- 15時20分 まりこぶんステージ
- 16時 終演



ライトアップされた古墳



古墳への参道



まがたま作りの様子



まりこぶんステージ

（府中市ホームページより引用）

3. 史跡の整備計画

(1) 整備の方向性

中里貝塚の整備は、現在の史跡指定地を優先して行うこととする。ただし、指定地が大きく2ヶ所に分かれているため、今後の追加調査や追加整備も見据えながら、中里貝塚の価値を分かりやすく発信するための整備を検討する。また、それぞれの地点で特徴的な遺構や遺物が確認されていることから、それらの要素を活かしながら現地を巡ることで、国内最大規模の縄文貝塚を“体感”できる整備を図ることとする。

なお、指定地周辺は住宅街となっているため、住民生活に配慮した施設整備や景観整備を図りつつ、史跡の価値を高めるような整備を目指す。

(2) 保存のための整備の手法

中里貝塚の本質的価値である貝層は、地下に埋蔵されており、開発行為等がない限りは、良好に保存された状況となっている。今後の整備にあたっては、地下遺構に影響を与えないよう、盛土保護などの対策が必要となる。

国内最大規模を誇る貝層の中里貝塚において、実際に発掘調査できた範囲は、ごく一部となっている。史跡の全容解明に向けて、追加調査や継続的な研究も重要である。

また、中里貝塚の本質的価値を広く周知し、情報発信を充実させることで、史跡に対する理解を深め、史跡の保護に繋げることとする。

(これまでの委員会等で出された意見。)

- ・今、判明している事柄だけで整備をするのではなく、分かっていない部分を調査・解明しながら、それを整備内容に反映させていく形で史跡の保存活用を図っていければと思う。
- ・史跡広場でガイダンス施設を作る場合には、情報発信の場だけでなく、調査研究の場としても継続していくことや、それらを体験できる仕組みが必要だと思う。
- ・小学生～中学生の中里貝塚に対する認知度が低いように思う。

(3) 活用のための整備の手法

中里貝塚は、他地域の集落型貝塚とは異なり、貝類利用に特化した希少な遺跡となっている。そのため、約800年に亘る採貝と貝の加工といった、当時の縄文社会を体感できるような活用を目指す。

(これまでの委員会等で出された意見。網掛けはワーキンググループでの意見。)

- ・現地で、貝塚を見ることができると良い。
- ・復元整備となると、かなり費用も掛かってくるので、ある程度、費用対効果も分析しつつ、どんな整備が必要か検討してほしい。
- ・一般的な思いとしては、「貝層を見たい」ということになると思うが、費用面や遺構保存のことも考えると、最近取り上げられているバーチャル的な整備(=AR・VR)も1つの手段だと思う。

- 中里貝塚は低地に位置しており地下水位が高く、露出展示はかなり難しいので、バーチャルの活用も有効な手段の1つだと思う。ただ、「生の迫力」には及ばないので、時々、過去の発掘調査区を再度公開するなどして、体感できると良いと思う。
- 展示施設も必要になると思うが、経済効果なども考えると、今後の運営や費用対効果も含めて、しっかりと検討してほしい。
- 貝層について、実際に現地で4.5m掘り下げて展示するのが一番理想的だが、物理的にはかなりハードルが高いので、3D映像などで疑似体験してもらうのは1つのアイディアになる。
- 何度も来てもらえるような施設整備を検討する必要がある、見て学ぶだけでなく、体験して学ぶことが大切。そういった活用のために必要な整備がこういったものか、よく考えなければならない。
- 住宅密集地の中の史跡広場という状況を踏まえると、避難場所としても確保してほしい。
- 地域に根ざした公園という点で、史跡広場を防災拠点としても利用できると良い。
- トイレ、休憩所、ベンチ、日除け等、管理施設の設置。
- A地点の児童遊園について、地元の中でも「公園のままが良い」という人と、「史跡として再整備してほしい」という人がいるので、地域の意見をしっかりと聞いて、検討を進める。
- 地形模型は、博物館や現地に置いてもらえると、説明の際にとっても役立つと思う。
- 現地で貝層の広がりを実感してもらう案として、貝層範囲をカラーアスファルト舗装する手法がある。（ただし、道路交通法などの絡みで実現可能かどうかは未確定。）
- ガイダンス施設は、現地（指定地もしくは指定地のそば）に必要。
- 上中里駅など、史跡を見下ろせる場所（＝ビューポイント）に説明板とARの機能があると良い。
- 最寄り駅や博物館から中里貝塚まで歩いてくる道中で、楽しめる仕掛けがほしい。

(4) 整備事業のスケジュール (案)

		H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	2020	2021	2022	2023	2024~
史跡広場の維持管理		→							
地域による利活用		→							
保存活用計画		→							
パブリックコメント				●					
地元参画(勉強会など)			→		→				
確認調査・追加調査		→							
短期計画	基本計画				→				
	基本設計					→			
	実施設計						→		
	整備工事							→	
中・長期計画									

国史跡中里貝塚 保存活用計画策定委員会 かわら版

第2号(平成30年10月発行)

中里貝塚の保存・活用・整備に向けた具体的な方向性を
話し合う保存活用計画策定委員会の第5回会議を開催しました！

本かわら版は、委員会で話し合われた内容等を昭和町地区自治会連合会管内の
皆様にお知らせするため発行するものです。

平成30年9月21日に北区飛鳥山博物館にて第5回「中里貝塚保存活用計画策定委員会（以下「委員会」という。）」を開催しました。今回の委員会では、議題と報告が3つずつあり、かなりボリュームのある検討内容となりました。また、委員会後半のフリートーキングでは、史跡周辺の地形模型を見ながら、活発な意見交換が行われました。

第5回委員会（平成30年9月21日）

議題

- (1) 計画書構成案について
- (2) 本質的価値ほかの再検討
- (3) 保存活用の基本的な指針(大綱)

報告

- (1) 中里貝塚委員会だより(かわら版)の発行
- (2) 地元勉強会等の予定
- (3) ワーキンググループの進捗報告

主な意見

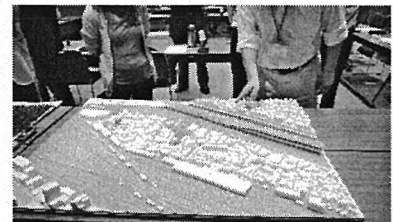
史跡の価値について

- ・貝塚本体だけでなく、貝殻を利用した後世の産業(胡粉)も加えてはどうか。

史跡の活用について

- ・日本最大の貝塚であることを広く周知するには、学校教育との連携が欠かせない。

※第1～5回の概要は、北区飛鳥山博物館のホームページにて公開しています。



●本委員会は、傍聴いただけます。くわしくは、事務局（北区飛鳥山博物館）までお問い合わせください。

中里貝塚とは・・・国内最大規模の貝層を有する、縄文時代の“水産加工場”です。マガキとハマグリ
の干貝加工に伴い廃棄された貝殻が、最大4.5mの厚さで堆積し、貝類の剥き身処理に関わる遺構なども発見されている貴重な遺跡です。



＜保存活用計画とは＞

国指定の文化財等について、保存活用の考え方を明確化し、必要な諸手続などを整理して、文化財等の確実な継承を図るために作成する計画です。

お問い合わせ（事務局）

北区飛鳥山博物館

TEL：03-3916-1133

<http://www.city.kita.tokyo.jp/hakubutsukan/>



国史跡中里貝塚 保存活用計画策定委員会 かわら版

増刊号(平成30年10月発行)

中里貝塚を広く知っていただくために、**特別講演会** を開催します！

■本かわら版は、委員会で話し合われた内容等を昭和町地区自治会連合会管内の皆様にお知らせするため発行するものです。

秋の特別講演会

国史跡中里貝塚を知る

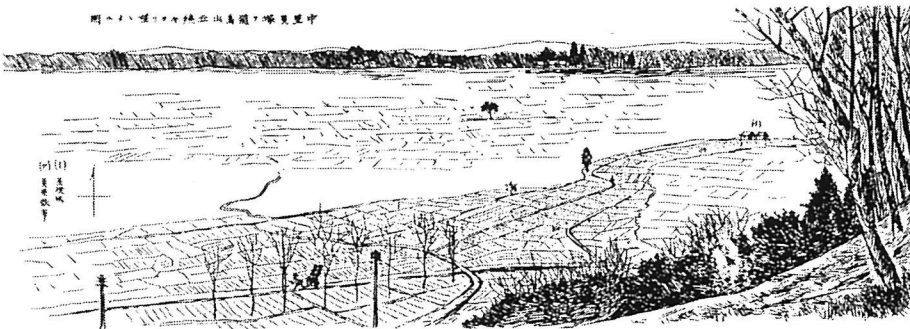
中里貝塚とはどんな遺跡なのか。中里貝塚について広く知っていただくために、昭和町地区自治会連合会のみなさまに向けて、講演会を開催します。みなさまのご参加をお待ちしております。

日時：平成30年11月11日(日) 午後3時～5時

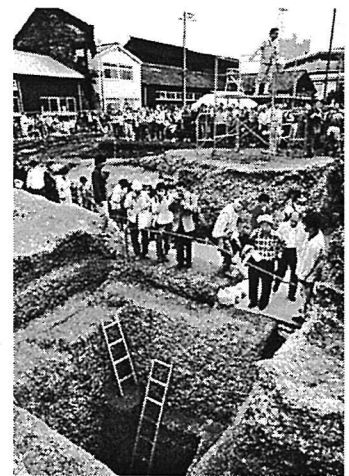
会場：昭和町ふれあい館(昭和町3-10-7)

講師：中島広顕(北区飛鳥山博物館 学芸員)

定員：50名 ※先着順。直接会場へお越しください。



明治29年頃の中里貝塚(「中里貝塚ヲ飛鳥山丘統キヨリ望ミタル図」『東京人類学雑誌』(11-121)より転載)
■古くより知られた貝塚で、江戸時代の地誌や絵図面にも、しばしば記されています。明治20年代頃まで、夥しい量の貝殻が露出していました。畑の中の点が集中しているところが貝殻の散布地です。



現地説明会の様子(平成8年10月)
■発掘調査の現地説明会には、3000人もの考古学ファンが詰めかけました。

【ご案内】

- 「中里貝塚」発掘調査の現場説明会を行います。

日時：11月8日(木) 午後3時～4時 調査地点：上中里2-10(奥村印刷跡地)
※事前申込は不要です。開催時間内に調査地点にお越しください。

- ワークショップの参加者を募集します。

※中里貝塚の保存や活用に関するワークショップです。詳細は後日お知らせします。

お問い合わせ(事務局)

北区飛鳥山博物館

TEL: 03-3916-1133

<http://www.city.kita.tokyo.jp/hakubutsukan/>



国史跡中里貝塚 保存活用計画策定委員会 かわら版 増刊号(平成30年11月発行)

ワークショップの参加者を募集します！

現在北区では、国史跡中里貝塚の保存・活用に関する将来像や整備について、「国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会」で協議しています。

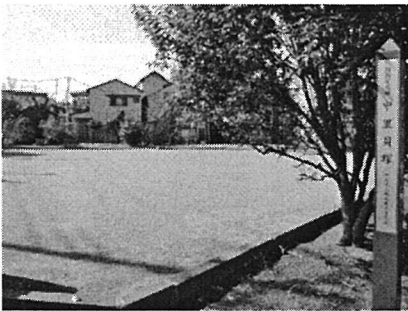
計画策定にあたって、地域のみなさまからのご意見やご要望をお伺いするワークショップ（意見交換会）を開催します。「史跡整備」や「史跡を活かしたまちづくり」にご興味・ご関心のある方は、ぜひご参加いただけますよう、よろしくお願ひします。みなさまのご応募をお待ちしております。

お申込み 北区飛鳥山博物館へ、電話 もしくは メール で、お申込みください。

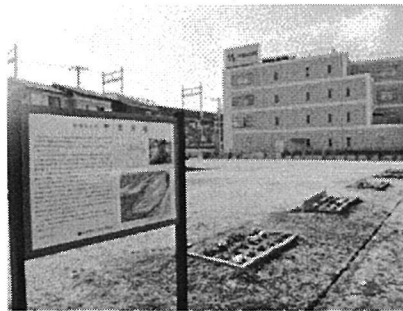
TEL : 03-3916-1133

E-mail : asukayama - museum@jcom.zaq.ne.jp

- 【ワークショップの内容】
- ・「広場で行なってみたいこと」や、「広場に欲しいもの」とは？
 - ・中里貝塚を世界一の貝塚にするために必要なことは？
 - ・施設見学会 など



上中里二丁目広場（中里貝塚A地点）



中里貝塚史跡広場（中里貝塚B・J地点）

【第1回ワークショップ】

日時：平成30年12月16日（日）午前10時～11時30分

会場：昭和町ふれあい館 2階第1ホール（昭和町3-10-7）

【ご案内】 ■「第6回 中里貝塚保存活用計画策定委員会」

日時：11月30日（木）午後1時～ 会場：北区飛鳥山博物館 講堂（王子1-1-3）

※傍聴いただけます。ご希望の方は、直接会場にお越しください。

お問い合わせ（事務局）

北区飛鳥山博物館

TEL : 03-3916-1133

URL : <http://www.city.kita.tokyo.jp/hakubutsukan/>



公式HP QRコード

■本かわら版は、委員会で話し合われた内容等を昭和町地区自治会連合会管内の皆様にお知らせするため発行するものです。